

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	光廣 敏樹	担当者名	江盛 浩司
-----	-------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『適応指導教室の体制づくりと運営について』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

不登校傾向児童や登校しぶりの児童にとって「安心できる居場所」を作り，自らの可能性に気付き，力を取り戻しつつ，教室又は学校復帰できる力を身に付ける。

取組のねらい

廿日市市学校教育の取組にある「子どもたちに寄り添い心を育てる教育を進める」の中の，「すべての子どもたちの居場所づくり」に着目して，不登校未然防止に努め，児童の居場所づくりの充実を図る。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

児童Aくんは折り紙に興味があり，作品作りに自信をもっていることから，一緒に折り紙を折り，それを相談室に飾った。また，児童Bさんは，細かい作業が好きなことと，大変繊細だったので，この部屋に足りないものを相談し，植物を用意して場所づくりに取り組んだ。更に二人は，クラブ活動で作品作りを行い，それを通して自己有用感を高めた。

児童の特徴を生かしながら環境(相談室)づくりに取り組んだ。



相談室の様子  
児童の個々の状況を考慮した，体制(別室指導対応マニュアル)づくりを行った。

別室指導対象の児童が増えていくにつれ集団に適応させる手立てに，違いがあることが分かった。個々の課題に応じた適切な支援を分析して，ニーズに合った体制を作る必要を感じ，部屋を3つに分けた。更に，児童への適切な支援，教職員の意識統一や共通した指導のために，指導体制の見直しを図り，「別室指導対応マニュアル」を作成した。個別の指導計画も作成し，支援に役立てた。

地域学校協働本部の協力を得ることも考えた。毎月の相談室の見守りの予定は，地域支援調整会議にて，翌月に入ってもらいたい予定を伝え，調整して見守って頂いた。

運営には，地域学校協働本部の方の力を生かしながら取り組んだ。

取組の成果と課題

〈成果〉

- ・昨年度90日以上欠席した2名の児童について，本年度の欠席数がそれぞれ12日，1日と大幅に減少した。
- ・他にも利用している児童はいるが，休んでいる又は欠席が長期化する可能性があると思われる児童の安心できる場所を作ることができた。
- ・昨年度の状況と比べてみると，今年度1月末の時点で，長期欠席者数は減っている。(令和元年度長期欠席者14名，令和2年度長期欠席者9名)

〈課題〉

人的なこと

- ・「生徒指導主事に任せておいたらいい。」という意識を持った教職員とのよりよい連携の取り方。
- ・相談室登校が長くなると担任の負担が増え，個に対応する時間が減ってくること。
- ・教職員間のクラス経営の考え方の違いや世代間の考え方の違い。
- ・不登校傾向ではない児童の利用の増加。

環境的なこと

- ・児童数増加に伴う場所や人員の確保の困難さ。
- ・計画的に見守り体制を整え，継続的に支援していくことが必要であること。